

報告

2016 年度東北支部研究会報告

寺藺 淳也 (会津大学)

1. はじめに

2016 年 4 月 15 日 (土)、仙台市青葉区の東北大学青葉キャンパス・青葉サイエンスホールで、2016 年度東北支部研究会が開催された。

今回の研究会はやや変則的な形で開催されている。2016 年 8 月の年会開催に向け、今回はそのテストケースと会場の下見という両方を実施することがメインの目的となった。また、年会の準備などにも時間や労力を割く必要があった (実際に 4 月の時点でもかなり忙しい状況ではあった)。

そのため、いつもであれば土・日の週末をまたぐ日程となっているのが、今回は短縮型で土曜の午後だけとなり、またグループディスカッションのテーマも年会の開催に向けたテーマ設定がメインテーマとなった。

2. プログラム

今回のプログラムは以下のとおりである。

==はじめに==

13:00~13:05 主催者あいさつ (寺藺・津村)

13:05~13:10 参加者自己紹介

==一般講演==

<座長: 寺藺淳也>

13:10-13:30 伊藤芳春 (聖和学園高等学校)

「60mm 天体望遠鏡で見える 60 天体」 /

「4 月に見える食変光星」

13:30-13:50 亀谷収 (国立天文台水沢 VLBI 観測所)

「国立天文台水沢地区の広報活動の進展」

13:50-14:10 津村耕司 (東北大学)

「2015 年度「もしも君が杜の都で天文学者

になったら」(もし天 2015) の報告」 / 「4 次元宇宙シアター Mitak の持ち運び式立体上映システムの導入」

14:10-14:30 寺藺淳也 (会津大学)

「月探査情報ステーションのリニューアル状況 (速報)」

14:30-14:50 並木優子 (Astrolab)

「プラネタリウム番組「ほしみるおじさんみぢかなうちゅうのおはなし」とガイドツアー」

14:50-15:10 嶺重慎 (京都大学)

「天文手話 WG について」

15:10-15:30 高田淑子 (宮城教育大学)

「気仙沼地区における復興事業としての理科実験教室」

15:30-15:45 休憩

==グループディスカッション==

15:30-16:30 テーマ: 本年度の年会で取り上げるテーマ

16:30-17:50 会場視察

17:50-18:00 終了挨拶 (寺藺)

19:00-- 懇親会

青葉サイエンスホールは、2014 年に完成したばかりの非常に新しい施設である。新しいだけのことがあり、AV 施設や机・いすなどの施設も整っている。もともと年会の人数を想定して会場を確保したので、満席の場合 120 名は入れる会場ではあったが、今回は参加者 19 名であったため、若干人数は少なくなってしまった。ただ、会場の視察を兼ねて

いるという点でまったく問題はない。

今回は日程上、施設見学などができなかったのは若干残念ではあるが、これは次回以降の支部研究会で復活させることになるだろう。

グループディスカッションでは、4 か月後に迫る年会に向けてのテーマの策定などが行われた。これも実は年会に向けたプログラムの1つで、年会で同じようなグループディスカッションを行う可能性を念頭に試してみたものである。



図1 支部研究会での発表の様子(寺菌の発表)

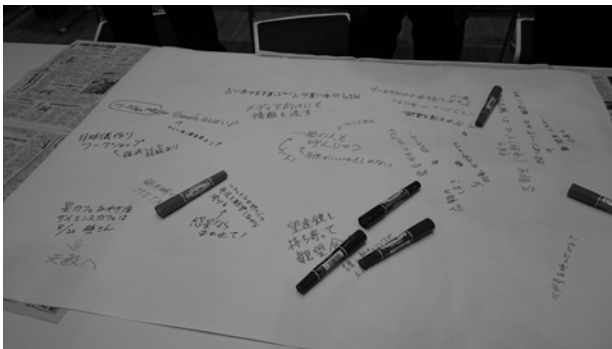


図2 グループディスカッション

グループディスカッションでは、このようにグループで年会で議論したい内容を自由に書き、それをもとに互いの内容を結びつけながらまとめていくという議論を行った。

また、会場視察では、今回会場に使った大ホールだけではなく、青葉サイエンスホール

全体の下見を行い、事務局用スペースなど、各種のスペースの割り当てなどを想定して議論した。また、会場内のオーディオ・ビジュアル設備や音声の状況などについてもチェックした。実際新しいホールだけあってこのあたりは非常にしっかりしており、我々としても一安心した次第ではあるが、やはりこういうのはみてみないとわからないものである。

さらに、会場視察の時間を利用して、年会に向けた作業スケジュールの確認と、作業担当の割り振りを行った。ふだんであればメールベースで話をしているが、関係者が一堂に集まることができる機会ということで、一気に話を進めることができるという意味ではたいへん効率的な時間であった。

個人的には、会場に併設されたセブン・イレブンでの買い出しや荷物の発送ができるという点もたいへんうれしいことであった(特に、コーヒーに困らないことがわかっただけでも大きな収穫であった)。

交通の便という点も、年会では重要な要素になる。今回は仙台駅などからのアクセスもみるようになったが、2015年12月に開通したばかりの仙台市地下鉄東西線はたいへん使い勝手がよいことがわかった。東西線の青葉山駅からは歩いて2分ほど、そして会場は駅の出口からは目の前にそびえ立っていてすぐにわかる。

私自身は東西線が開通してからはじめて東北大を訪れた。それまではバスで山を上ることになるために時間がかかっていたのだが、地下鉄の開通により仙台駅からも十数分というアクセスになったことはたいへんに感慨深かった。

半日という日程ではあるが、会終了後の懇親会は行われた。仙台一の繁華街、国分町で、仙台の名物牛タンに参加者の多くと共に舌鼓を打つことになった。



図 3 集合写真

3. 支部研究会を振り返って

今回も 2015 年度（秋田）での支部研究会と同様にテーマを設けずに実践報告を行う形となった。ただ、今回は半日、そして発表時間として確保した時間が 2 時間ほどであったという事情もある。今後何らかのテーマを設ける形の支部会に戻していくかどうかは引き続き議論が必要だろう。

今年度の支部研究会は年会準備のための変則的な内容となったため、その意味では来年度（2017 年）の支部研究会はその分を充実さ

せた内容としていくことが必要だ。時期についても、通常東北支部研究会は 10 月（雪が降る前）を開催タイミングとしてきたが、2016 年度は 4 月と半年ほどの間隔になってしまったため、日程についても考慮が必要である。

場所についても検討が必要であろう。北東北を開催場所とすると交通の便の問題が出てくる。交通の便を重視するとどうしてもいつもの場所になってしまう。

最後に、今回の支部研究会に際して会場のご手配、ご準備などにご尽力をいただいた東北大学の津村耕司様、また準備に際しご協力をいただいた東北支部メンバー各位に深い感謝の意を表したい。

* * * * *